

(算数科)

## 「アクティブ・ラーニングを活性化させる授業づくり」 ー算数科におけるユニバーサルデザイン化を通してー

大阪市立平野西小学校 玉松 昂大

### 1. 研究主題設定の理由

「豊かな心をもち生きる力を身につけた子どもの育成」、これは本校の教育目標である。今後ますます激しく変化し続けていく社会に対して、学び続ける姿勢を養い、未知な問題や状況にも果敢に挑戦しようとする心と行動力を備えた人に成長してほしい。そうした願いのもと、本校は様々な教育実践を繰り返してきた。豊かな人間性や健やかな体を育むことはもとより、確かな学力を身につけさせようと授業づくりに努めてきたのである。

しかし昨年までに実施された全国学力学習状況調査の結果より、本校の児童は算数科の正答率が全国の平均値を下回っていることが明らかになった。特に、基礎的・基本的な知識・技能が十分に定着していない児童が多く見られたことから、授業づくりの改善が必要であるという結論に至った。これまでもそれぞれの児童に配慮して指導を工夫してきたが、形式だけの問題解決的な学習では個人の学力差へ対応することが難しいことを痛感していた。そこで基礎的・基本的な知識・技能の習得や活用がもたらす「わかる」喜びや「できる」楽しさを児童に味わわせることが大切なのではないかと考えた。

### 2. 研究の趣旨

全員が「わかる」喜びや「できる」楽しさを感じられる授業を成立させるために、問題解決的な学習に「ユニバーサルデザイン」の枠組みを組み込むことが効果を生み出すと考えた。既に多くの学校や研究機関で、その効果の検証が進んでいる。本校でも前年度より、その効果を検証すべく「焦点化」「視覚化」「共有化」の3つの視点を取り入れて、算数科の授業づくりを始めた。それとともに、全校的に算数科の学習過程を統一し、研究の基盤を形成した。そしてそれらを踏まえた検証授業の結果より、児童の学習の様子や授業後に回収したノートに表れた考えなどから、授業の改善が一定の効果を上げていると判断することができた。

そのため、本年度も研究主題を「アクティブ・ラーニングを活性化させる授業づくりー算数科におけるユニバーサルデザイン化を通してー」と設定して、引き続き理論研究とともに検証授業を進めていくことにした。

### 3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

(視点①～③は授業の内容に関わる項目、視点④は授業の改善に関わる項目である。)

#### 視点① 授業を焦点化(シンプルに)する

○ 授業の目標や活動・発問をしぼり、児童に自力解決させたい内容を明確にする。

- (1) 教材の工夫などで算数的な活動を明瞭にすること
- (2) 教師が教えること、児童に考えさせることを分類すること
- (3) 教師の指示や発問を精選すること

#### 視点② 授業を視覚化（ビジュアルに）する

- 情報を可視化したり、活動を動作化したりして、思考できるようにする。
  - （１）問題解決に必要な情報などを児童に見える形にすること
  - （２）問題把握や解決に至る見通しをイメージできるようにすること
  - （３）問題解決の過程、思考などをイメージできるようにすること

#### 視点③ 授業を共有化（シェア）する

- 考えを伝え合ったり確認し合ったりして、その考えを深めたり補わせたりする。
  - （１）問題解決の過程、思考などを共有すること
  - （２）教材に応じて話し合う場（ペア・グループなど）を設定すること

#### 視点④ 授業を省察（リフレクション）する

- 授業実施時の児童の活動のようすや発言、ノートなどの成果物の分析に加えて、事後討議会や児童へのアンケート調査などから、多角的に研究の検証を行う。
- 本時の改善案を作成することで次年度以降の学習計画を見直し、カリキュラム・マネジメントを推進していく。

### ４．研究の成果と今後の課題

#### （１）研究の成果

- 前年度・本年度と理論研究を進めてきた結果、算数科におけるユニバーサルデザイン化における３つの視点とそれぞれの視点における手立てについて整理することができた。
- 授業を焦点化することによって、ほとんどの児童を目標に到達させることができた。
- 授業を視覚化することによって、教師から答えを教えられるのを待つのではなく、主体的に問題を解決しようという姿勢が見られた。
- 授業を共有化することによって、自分の考えを意欲的に発表する児童が増えるとともに、一人では気づけなかった他の考え方を知ることによって学びがより深まった。
- 研究授業を終えて、自己の実践を振り返るために本時の改善案を作ったことで、より「ユニバーサルデザイン化」の図られた授業を提案することにつながった。また、そうした営みによって、教師の授業力の向上にもつながった。

#### （２）今後の課題

- 「焦点化」「視覚化」「共有化」それぞれの視点について留意すべきことがある。  
（例：スモールステップを刻み過ぎると「考える」時間の十分な確保ができなくなること、活動内容をしぼりすぎると深い学びにならない場合があること、など）
- 今後は算数科だけでなく、他教科との時数のバランスをとったり、関連を図ったりしてカリキュラム・マネジメントをいっそう推進することが大切になる。